

## サムエルの歴史に見られる霊的な原則、命の学課、聖なる警告

聖書：サムエル上 1:10-11, 18-20, 27-28.

2:30, 35-36. 3:1-21. 4:11-22. 7:3-17. 12:23

- I. サムエルは、レビの部族に属していましたが(歴代上 6:33-38)、アロンの家、すなわち、神によって定められた祭司の家には属していませんでした。サムエルは、誕生によってではなくナジル人の誓願によって祭司であった者として、主に対して務めをしました：
- A. ハンナの祈りに対する神の行動と答えは、神の願いを成就するために絶対的である勝利者のナジル人を生み出すことでした。サムエルは生まれる前にさえ、そのような人になるよう母によってささげられました——サムエル上 1:10-11, 18-20。
- B. 神の願いは、神のすべての民がナジル人になることです。ナジル人になることは、絶対的に徹底的に神へと聖別され分離されること、すなわち、ただ神のためだけであり、ただ神の満足のためだけであることです。この神の満足とは、イエスの証し、すなわち、キリストの証しと表現としての証しする召会です——民 6:1-2. 詩 73:25-26. 啓 1:2, 9-13. 19:10. 参照、出 38:21：
1. ナジル人がぶどう酒やその源と関係があるあらゆるものを絶つことが表徴するのは、あらゆる種類の地的な享受や楽しみを絶って、キリストを自分の享受や楽しみとして取り経験するということです。命の木を食べること、すなわち、キリストをわたしたちの命の供給として享受することが、召会生活の主要な事柄であるべきです——民 6:3-4. 啓 2:7. 士 9:12-13。
  2. ナジル人が頭をそらないことが表徴するのは、主の頭首権と、神によって立てられたすべての代理権威とを拒絶せず、絶対的に服従するということです——民 6:5. ローマ 13:1-2 前半. エペソ 5:21, 23. 6:1. ヘブル 13:17. I ペテロ 5:5。
  3. ナジル人が彼の血縁者の死によって汚されず、彼の分離の中にとどまって、神に対して聖となることが表徴するのは、ナジル人が天然の感情に打ち勝つということです——民 6:7。
  4. ナジル人が死人に近づかず、あるいは、そばにいる人の突然の死によって汚されないことが表徴するのは、ナジル人が死から分離されているということです——民 6:6-9. 啓 3:4. レビ 11:31. 5:2. 参照、I ヨハネ 5:16。

- II. サムエルの時、アロンの家の祭司職は、完全に墮落していました。しかしながら、神はその状況を予見していました。神は、アロンの家が祭司になることを定めた以外に、定められた祭司たちに不十分なことがある場合に備えて、補充、すなわち、民数記第6章のナジル人の誓願をもうけました：
- A. アロンの家が墮落したとき、この補充が実際に用いられました。サムエルは、ささげられ、分離され、主に貸されることによって、祭司になりました——サムエル上1:11, 27-28。
  - B. エリの時代、神は祭司職に関する限り貧しかったので、ハンナはサムエルを主に貸しました。状況が不正常であるとき、主は彼の行政に関して貧しくなり、だれかが自発的に自分自身を主に貸す必要があります。
  - C. ハンナはサムエルをエリにささげた後、神のすばらしい行為を通して成し遂げられた救いのゆえに、神を賛美しました。彼女の祈りは、神のエコノミーにおける神の行動と関係があり、彼女が神のエコノミーに関する事を認識していたことを示していました——サムエル上2:1-10。
- III. サムエルは、エリの監護の下で成長しました。サムエルは幼い時、エリの前でエホバに対して務めをし(サムエル上2:11 後半, 18-19)、神に対して務めをする道をエリによって教えられました：
- A. 神はサムエルを三度、呼びました。「そこでエリは、エホバがこの少年を呼んでおられることがわかった。エリはサムエルに言った、『行って寝なさい。もしまたあなたを呼ばれたなら、「エホバよ、お話してください。あなたのしもべは聞いております」と言いなさい』。……エホバは来てそばに立ち、これまでの時のように、『サムエルよ！ サムエルよ！』と呼ばれた。サムエルは言った、『お話してください。あなたのしもべは聞いております』——サムエル上3:1-10：
    - 1. これは、サムエルがエリから学んだ、完全に積極的なことでした。わたしたちは主のしもべとして、主との交わりを維持して、いつも主に聞く必要があります——ルカ1:34-38, 10:38-42。
    - 2. わたしたちの命は主の言葉にかかっており、わたしたちの働きは主の命令にかかっています(啓2:7, サムエル上3:9-10, 参照、イザヤ50:4-5, 出21:6)。信者たちの生涯は、完全に主の語りかけとつながりがあります(エペソ5:26-27)。
    - 3. 主の語りかけによって、わたしたちは彼の永遠のエコノミーの目標を成就して、彼の配偶者としての花嫁を持つことができるようになります——啓2:7, エペソ5:26-27, 雅8:13-14。

- B. サムエルは学んでいたとき、墮落したアロンの祭司職が悪化するのを観察しました：
1. サムエルは、神の箱が民の長老たちによって不法に用いられ、ペリシテ人によって奪われて、神の栄光がイスラエルを去ったことを見ました。サムエルは、エリの家に対する神の厳しい裁きを認識しました。その裁きには、エリの死と、彼の二人の邪悪な息子であるホフニとピネハスの死が含まれていました——サムエル上 2:12-36, 4:11-22。
  2. エリの家に対する神の厳しい裁きは、神の人によって予言されました (2:27-36)。それから、この厳しい裁きは、サムエルを通して語られたエホバの言葉によって確証されました (3:11-18)。
  3. サムエルを通して来たるべき裁きをエリに告げた神の目的は、この幼い祭司の少年に忘れがたい印象を与えるためであったのででしょう。これは神の知恵でした——17-18 節。
  4. これは、サムエルの将来のナジル人の祭司職を弱めることはありませんでした。反対にそれは、彼が祭司の奉仕をしていた全期間、絶えず彼に対する警告となって、彼の全生涯にわたって、神に対する奉仕において純粹であり続けるよう彼を助けました。
- IV. サムエルは、時代を転換させて、王職のある王国の時代をもたらした人でした。これは、イスラエルの歴史においてだけでなく、人類の歴史においてさえ大きな事柄でした：
- A. サムエルは、アロンの家に反逆せず、アロンの家の何をも不法に用いませんでした。サムエルが成長していたとき、神は環境を案配して彼を成就し、彼の度量を増し加え、神が時代を変えて王職のある王国の時代をもたらすために必要となるすべての事を行なわせました。
  - B. サムエルは祭司として、古びたアロンの祭司職を置き換え、ある意味で、終わらせました。神がサムエルを用いて時代を変えたのは、反逆や革命を通してではなく、王職をもたらすという神聖な啓示の方法を通してでした。
  - C. サムエルは啓示の人であり、見た事にしたがってすべてのことを行ないました。「エホバはご自身を……サムエルに、エホバの言葉によって啓示された」(サムエル上 3:21)。さらに、サムエルは神の心になった人、すなわち、神の心の複製、複製でした。そのような人として、彼は決して反逆的な事を行なおうとしませんでした。
- V. サムエルの行ない、生活、働きだけでなく、彼の全存在とパーソンが、神にしたがっていました。サムエルの存在と神の心は一でした。こういうわ

けで、神にしたがった人であるサムエルは、地上での代理の神であったと言ってもよいでしょう：

- A. 神の思いは、サムエルの考えでした。彼には、別の思想、考え、思いはありませんでした。彼の生活と働きは、何であれ神の心の中にあるものを完成するためでした。
  - B. サムエルは、サウルとダビデを油塗って王としました(10:1, 16:1, 13)。これは、神の定めにしたがった事であり、サムエルは絶えず神の油塗られた者の前を行って(2:35)、王を監督し、王が行なっている事を観察すべきでした。
  - C. これは、地上での代理の神であるサムエルが、王よりも大いなるものであったことを示します。サムエルがそのような程度にまで資格づけられることができたのは、長年にわたって神が彼のエコノミーのために、もっぱらサムエルを成就していたからです：
    1. サムエルが神によって用いられて、神のエコノミーを遂行することができたのは、彼が神と神の心になかった人であって、利己主義や自己の利益の思想を持っていなかったからです——参照、マタイ 16:24-26, ルカ 9:23-25。
    2. 彼には、神の心以外のものや神の選民以外のものに対する心はありませんでした。彼の心は、神の心の反映でした——参照、ピリピ 2:19-22, II コリント 3:16-18。
    3. サムエルは、神の個人的な宝また所有である神の民のために祈らないことは、エホバに対する罪であると考えました——サムエル上 12:23, 出 19:5。
  - D. サムエルにとって、彼の特定の環境の中で、神のために立つことは容易ではありませんでしたが、彼は神の權益を顧慮し、時代を転換させました。旧約によれば、サムエルは、神と神の權益のためであることにおいて、モーセと同列に置かれています——エレミヤ 15:1。
  - E. 「サムエルは民に王国の習わしを告げ、文書に記してエホバの御前に置いた」——サムエル上 10:25 前半：
    1. モーセは、律法をイスラエルの子たちに与えました。しかし、サムエルが来る前、彼らには一連の法規、すなわち、憲法がありませんでした。
    2. サムエルは民に、地上でどのように神の王国を実行するかについての法規、憲法、習わし、慣習、方法、規定、規則を教えました。
- VI. 神は新しい時代を開始し、若いナジル人であるサムエルを忠信な祭司とし

て起こし、墮落した祭司職を置き換えました——サムエル上 2:35 :

- A. サムエルは神によって立てられて、神の言葉を語り、古い祭司職による神の言葉の教えを置き換えました。祭司職において、祭司が行なうべき第一の事は、神のために語ることです。
  - B. 大祭司が着けた胸当てとウリムとトンミムは、神が神の民に語るのに用いた手段でした(出 28:30)。祭司職の墮落において、神の語りかけはほとんど失われていました(サムエル上 3:1, 3 前半)。
  - C. 神は、引き上げられた預言者職においてサムエルを預言者として立てることによって、神の言葉を神の選民に供給しました(3:20-21)。また神は、サムエルを士師として起こすことによって、神の権威を神の選民に行使しました(7:15-17)。
  - D. サムエルは、最後の士師として、士師職を終結させました。また新しい祭司として、引き上げられた預言者職によって強められた王職をもたらしました。
  - E. 神は、一人の生きた人、一人の預言者を起こして、神のために語らせる必要がありました。神の定めにおいて、サムエルは最初の預言者と考えられます。なぜなら、彼は神の語りかけのための預言者職をもたらしたからです——使徒 3:24, 13:20, ヘブル 11:32。
- VII. サムエルは、地上で神と一でした。サムエルは、地上における代理の神として、すなわち、地上で神の民を支配する天の神の代行として、五つの身分で務めをしました——サムエル上 7:3 :
- A. サムエルは、ナジル人として務めをし、絶対的に神にささげられ、神が彼のエコノミーを完成するようにしました——1:11, 28 前半。
  - B. サムエルは、神が尊び、神が喜ぶ祭司として務めをし、古びて墮落した祭司職を置き換えました。またサムエルは忠信に神のために行動し、地上での神聖な統治のために王を任命し、立てさえしました——2:30, 35-36, 7:3-17, 士 9:9, 13。
  - C. サムエルは、神によって立てられた預言者として務めをし(サムエル上 3:20)、神の言葉を語って、古い祭司職の教えを置き換えました。その時、エホバの言葉はまれであり、ビジョンは広く行き渡っていませんでした(1-10, 19-21 節)。
  - D. サムエルは、王職の実際の中にある士師として務めをし、古く古びた祭司職によって民を裁くことに置き換わりました——7:15-17。
  - E. サムエルは、祈りの人として務めをし、神の選民のために祈りました。そ

結晶の学びアウトライン

メッセージ 3 (続き)

れは、彼らが神の道において守られ、神と一になり、諸国民の偶像によって罫<sup>わな</sup>にかけられず、エベネゼル(「助けの石」を意味する——7:12)としての神を享受して、彼らに関する神のみこころにおける願いが成就されるためでした(7:3-17. 8:6. 12:19-25. 15:11 後半)。